学校教育目標：　地域とともに夢や目標を実現する力を育てます

六ツ川中だより

発行日：令和6年　1月23日（火）　NO.9
発行者：横浜市立六ツ川中学校　https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/mutsukawa/

2024年のスタートにあたり

校長　妹尾　正彦

2024年、新しい年を迎えました。

１月１日に起きた能登半島地震において亡くなられた多くの方々に謹んでお悔やみ申し上げるとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

この能登半島地震では自然の圧倒的なる力をまざまざと見せつけられるとともに、それに対して人ができることは事前準備と共助が機能する体制作りしかないことを改めて感じさせられました。

昨年９月に行った全校一斉総合防災教育で、南区役所の地域防災担当の方から平成７年に起きた阪神淡路大震災の際の情報と、今我々が考えるべきことについてお話をいただきました。

・これから30年間の中で首都直下型地震が起こる確率は70～80％である。
・震災時、公助は火災対応や厳しい現場が優先となってしまうため、救助の77％は自助・共助で、特に閉じ込めや生き埋めの救助は98％が自助・共助であった。
・共助の力を上げるためには、日頃からの挨拶や地域活動への参加を通して、顔を知っている関係作りが大切である。
・首都直下型地震が起きた時、火災が一番怖い。南区は木造密集地域があり、幅４ｍ以下の道路や坂・階段も多いことから消火活動が難しく、地震で火災が発生した時には横浜市で被害が大きくなる地域の一つと予想されている。
・地震発生時の火災の出火原因の60％以上が電気関係。感電ブレーカーの設置や、地震が起きた時にはブレーカーを落とす習慣を。
・阪神淡路大震災での建物内でのケガの46％が家具などの転倒落下、29％が割れたガラスによるもの。家具の転倒防止やガラスの飛散防止シートを貼るなどの対策を。
・地域の高齢化に伴い、防災の担い手として中学生が期待されている。

事前準備の大切さは、１月２日に起きた日航機と海上保安機が衝突炎上した事故からも改めて示された気がしました。確かに自然の強大な力の前では人間の力は小さいものかもしれません。先の見えない困難が待っているかもしれません。だからと言って諦めるのではなく、自分たちが今できることをしっかり行うとともに、温かいものが食べられて暖かくゆっくり眠ることができる、そんな状況がいかに幸せなことなのか、普段気づかないこうしたことへの感謝の気持ちを持ち、一日一日を大切に生きていくことが、今我々がやるべきことだということを１月９日全校生徒と共有し、2024年の六ツ川中学校はスタートしました。

保護者の皆様、地域の皆様、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

【お知らせ】
本校職員の時間外勤務時間を少しでも削減する方策の一つとして、２月１日より完全下校時刻１時間後から朝７時45分まで留守番電話のセットをさせていただきます。
皆様のご理解とご協力をお願いいたします。